

⑫斜めの誘導ブロック

誘導ブロックは、できるだけ歩道の方と平行に設置することが基本です。しかし、交差点の手前では、斜めに誘導ブロックを設置することがあります。これは、横断歩道への進行方向を間違えないようにするため、あるいは、車道を渡る際に横断歩道の中心付近を歩けるようにするための工夫なのです。誘導ブロックの全体的な設置位置を変えて、斜めの誘導ブロックを避ける方法も考えられます。

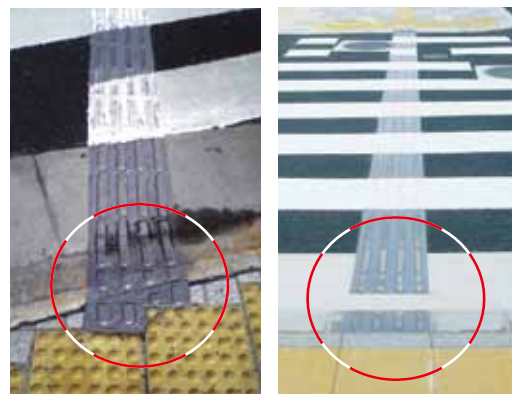


斜めの誘導ブロック

⑬視覚障害者用横断帯（エスコートライン）

視覚障害者用横断帯（エスコートライン）は、視覚に障害のある人が横断歩道を迷わず歩行できるように、横断歩道前後の誘導ブロックとの連続性を考慮して設置されていました。しかしながら、歩道と車道の間に雨水や土砂等がたまりやすく、安全性や維持管理の面で課題とされていました。

誘導ブロックとエスコートラインとの間が足の大きさ以上でなければ概ね迷わないという、視覚に障害のある方々のご意見を踏まえ、最近では、縁石部分にエスコートラインを設置して誘導の連続性を確保しつつ、雨水排水や土砂堆積にも配慮するという方法が採られています。



⑭ユニバーサルデザインベンチ

誰もが使いやすくするため、設置してあるベンチには、次のような工夫が施してあります。

- ・立ち上がったたり座ったりしやすいように手すりが付けてある
- ・車いすのためのスペースが設けてある
- ・立ち上がりやすいように、体の動きに連動してベンチの角度が変わる



ユニバーサルデザインベンチ



⑮発光ダイオード式誘導ブロック

誘導ブロックの凹凸は、全盲の方が杖や足の裏の感覚で認識します。誘導ブロックの色は、弱視の方が舗装面との輝度の違い（輝度比）により認識します。

発光ダイオードが埋め込んである誘導ブロックは、暗くなると光を発するため、夜間に弱視の方を誘導する際に有効です。



発光ダイオード式誘導ブロック
（点状ブロック）



発光ダイオード式誘導ブロック
（線状ブロック）

※ここでは「視覚障害者誘導用ブロック」を「誘導ブロック」と略して表しています